

## 目標達成計画

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	開設して間もないため地域との交流は始まったばかりであるが、今後おは行事だけでなく地域の一員として地域活動などへも参加し地域住民との交流を深めていくことを期待したい。	二か月に一回開催している運営推進会議に地域住民を代表して民生委員の参加をお願いしている。民生委員のご協力や助言をもとに地域主催の“敬老会”や“お祭り”に参加したとともに近隣の小・中学校とも広報誌を配り交流は図れているがより地域に開かれた事業所運営のために地域活動に参加し地域に根付いた事業所作りに取り組んでいく。	運営推進会議構成委員である地域包括支援センター職員からの助言もあり地域活動の一環でもある地域住民との合同防災訓練に参加させていただき事業所の存在をより知っていただくよう取り組んでいく。また既に交流のある小・中学校とも広報誌のやり取りだけでなく、お互いが定期的に交流を図れる機会を、窓口でもある校長先生に打診し目標達成に向けて取り組んでいく。	随時
2	8	馴染みの場所や人との関係を途切れないようにするという支援は積極的には行っておらず、家族に任せている状況である。その人らしく地域で生きることを支援するために、まずは本人の話を聞き、その人の馴染みの人や場所との関係性を把握することから取り組むことを期待したい。	入所されている方は同区内の方や隣接区の方が多く、馴染みの場所や知人の方に会うためには送迎等の支援が必要なのが現状である。入所されましても毎週、以前の居住環境に御家族様の支援のもと外出される方や馴染みの行事等に参加される方もいらっしゃるが、個々の家庭環境によって全員の馴染みの関係性を把握するに至っていない。一人ひとりの意向等の把握に努め関係性の維持に取り組んでいく。	御利用者様一人ひとりの意向やこれまでの馴染みの場所、関係性を維持できるよう“その人らしさ”を重要視し担当スタッフによって具体的な支援方法を明確化し、管理者及び計画作成担当者窓口として御家族様や友人、知人の方々にご協力を頂戴できるよう働きかけていく。また友人や知人の方が遠方な場合には“手紙”等によって関係性維持に取り組んでいく。	随時
3	9	入居時にアセスメントは行われているが、それだけで本人の意向等が全て把握できるわけではないので、入居後に得られた情報や職員の気づきを記録し、より深い意向や思いの把握に取り組むことを期待したい。	入所時には御本人様や御家族様、各関係者の皆様より事前に同意のもと情報を共有しているが、入所後の日常生活において聴かれた御本人様の意向や思い等はこれまで随時記録に残すシステムが構築されていなかったことが現状である。より実状に応じた支援計画となるよう担当スタッフによる定期的な支援計画の検証を行い、その検証された内容については“職員会議録”に記録することを徹底する。	これまでは定期的(三ヶ月に一回または心身状態変化)にアセスメントし支援計画の検証と見直しを行ってきたが、各担当スタッフがアセスメント様式を確認し、状態変化や御本人様の意向、要望等に応じて随時支援計画を記録に残す実践的な取り組みを行っていなかったため、全スタッフが情報を共有し実状に合った支援に取り組んでいく。	随時
4	9-2	日々の支援の中で気付いた事は、スタッフノートによるその時だけの情報共有ではなく、利用者個別のアセスメントシートの該当する項目に随時記入するなどして、その方についての情報を時間が経過しても確認、活用しやすいようにしていくことが望まれる。	御利用者様個々のアセスメント様式をプリントアウトし計画作成担当者による情報集約後の支援計画のみではなく、担当スタッフや他のスタッフも日常生活の中で聴かれた情報を記録に残す取り組みを目標とし実践に向けて取り組んでいく。	これまでは支援計画(施設サービス計画書)に直接記入し定期的または必要時(状態変化等)に個別の支援計画を見直ししていたが、御利用者様の入居後の生活が安定してきたとともに、日常の“気づき”について記載することが少なくなっていた。日常生活状況の把握に努め実状に即した支援計画となるよう体制を見直す。	1ヶ月
5	10	サービス担当者会議に本人、家族が参加することが少ない。介護計画作成の段階から十分な話し合いが行われ本人本位の計画が作成されるよう、可能な限り本人、家族にもサービス担当者会議に参加してもらい取り組みを期待したい。	サービス担当者会議に参加される御本人様は少ないのが現状である。また御家族様の参加も少なく面会時や電話連絡によって検討内容や変更事項について報告を行っているものの担当者会議への参加は実際に行っていないため議事録にも氏名が残されていない。面会時や電話連絡を行った事実は記録に残し今後の支援方法について検討や説明(同意)を得られた事実を残す。	実際に、担当者会議に参加される方は少ないことが現状であるが、その代替えとして面会時や電話連絡は実際に行っている。しかし記録として残しているかという点、相談日や連絡日時等は記録として残ってはいない。実際に提供する支援について自ら振り替えられるよう検討記録とともに担当者会議に参加していただける環境と関係性の構築に取り組んでいく。	随時
6	13	より実践的なものになるよう、消防署と連携した上での避難訓練の実施が望まれる。また、スプリンクラーや警報装置等は充実はしているが、万一の際には近隣住民の支援が必ず必要なため、地域との協力値性の構築が望まれる。	日中、夜間等災害を想定した定期的な訓練の実践に取り組んでいく。全スタッフが緊急災害時には迅速な対応が出来るよう消防署の協力得た訓練の実践に取り組んでいく。	緊急災害時には地域住民のご協力が得られるよう事業所開設時には近隣住民の皆様へ依頼したが定期的な働きかけは行っておらず、緊急災害時に協力を得られるよう関係性の維持に取り組んでいく。今後の具体的な活動として“消防団”の方々へ事業所の状況を知っていただくために働きかけを行う。また地域主催の防災訓練を実施していることなので(民生委員の方より情報を戴く)参加し事業所の状況を報告させていただき、地域住民の皆様よりご協力を頂戴できるよう関係性づくりに取り組んでいく。	随時